

令和7年度第1回男女共同参画推進会議 議事要旨

(令和7年6月25日土岐市プラザ2階第2研修室)

委員	近藤眞庸 委員、内山眞由美 委員、勝野幾久子 委員、三輪やよい 委員、小栗祥吾 委員、加藤大祐 委員、塚本泰二 委員、戸松陽子 委員、神原隆彦 委員、小池祐加 委員
事務局	山路知治 地域振興部長、木股秀樹 市民活動課長、坂崎舞子 市民活動課人権・男女共同参画係長、川上裕央 市民活動課主査

	【副会長選出について】
事務局	副会長の選出について一任されたため、副会長を選出 → 承認
	【土岐市の男女共同参画の進捗状況について】
事務局	資料に基づき説明
会長	出前講座の実施は要望があったのが土岐津小学校だけだったのか。それとも、要望がなかったのか、直接お願いしたのか。
事務局	初めての取組であったこともあり、市の方から教育委員会に依頼をして土岐津小学校を紹介してもらった。対象の学年が3クラスあり、クラスごとで実施をした。今後は小学校を順番に、もしくは事業所を対象に年度ごとに検討をしながら実施していく。
会長	実施回数を少なめではなくて、希望があるところには実施していけると良い。感想になるが、講演会実施後のアンケートの結果が非常に良い。素晴らしい成果だと思う。
委員	スラックスとスカートの選択制についてだが、泉中学校は来年度からブレザー+スラックスの選択ができるようになった。今までだと、セーラー服にスラックスを合わせることであり、見た目としてあまり合わない。ブレザー+スラックスだと形としても合うと思う。そういう動きが広がっていけば良いと思う。
会長	導入の経緯をもし知っていれば教えてほしい。
委員	校長先生が昨年度から赴任されてきて実現した。詳細は分からないが、業者の選定の後に、保護者や生徒にアンケートを取った。皆で選んだことになる。
会長	生徒の回答も多かったのだろうか。選択肢が広がるということになる
委員	懸念事項としては、修学旅行の時に制服に統一性がないということはあるが、いずれ慣れていくと思う。昔の固定観念になるのではないかな。
委員	神原委員の補足をすると、中学校長会でも話題になっていた。まずは泉中学校で先行実施をし、そこでニーズを探って他の学校にもブレザーというのも一つの選択肢として展開していければ良いと思う。校則の見直しに合わせて制服の見直しも一つとして、他の学校も動いている。選択の自由を親、子どもに広がっていくと良い。
委員	私も参加している圏域 DV 協議会の開催が年に1回である。多くのメンバーが参加しているので、もう一回は市の関係機関等で集まれば情報交換がやりやすいのではないかな。

委員	私も講演会に参加した。子どもたちに色んな方面から男女共同参画の話を伝えるのは良いと思う。
会長	講演内容のアンケートを「非常に良かった」「良かった」等の抽象的なものではなく、講演内容が分かるようなものであれば展開しやすいのではないかと。
委員	私も講演会に参加した。私たちの年齢は男女共同参画の時代ではなかったが、講演会を受講した高校生を見て時代が違うと感じた。今の若い人たちは自然に男女共同参画ができているのではないかと。若い世代ではなく、男女共同参画がなかった時代を生きてきた人にこそ伝えないといけないと感じた。
委員	小中学生のアンケートでは、男女の地位が平等になっているについて「思わない」「どちらかといえば思わない」が58.3%もあって驚いている。意味が分からないのか、質問の意図とは逆に女子が優遇されているということなのかが回答からは分からない。深掘りした方が良いのではないかと。
	【事前に配布した質問票1について】
事務局	市民意識調査の年代別の回答にバラつきがあるため、幅広い年齢層に男女共同参画を推進しなければいけないと思われる。
委員	質問が分かりにくいのではないかと。私の感覚では、年齢が上がれば上がるほど、「夫は仕事、妻は家庭」に賛成していると思っていた。実際の数値上は10代、20代も賛成しているので幅広い世代に男女共同参画の推進が必要だと感じた。
	【質問票2について】
委員	制服の選択制と同様に性の多様性に関することであったので質問をした。事務局からの回答で理解した。
	【質問票3・4・5について】
委員	調査の回答だけでは、分かりづらい点があったので深掘りした。質問した回答にもあるように男女の役割分担を固定的に捉えがちとなっていると感じる。そういった子どもたちの回答は貴重であり、教える側の人達が変わらないと子どもたちは変わらない。75%まで引き上げていくのは大変だと感じる。
委員	教科書に思い込みの部分が残っているのではないかと感じた。教師、子どもの隠れたカリキュラムの中で学んでいる可能性もあるかもしれない。
会長	教科書の中でイラストが出てくるときに、例えば、消防士が出てくると必ず男性である。昨年と同様の教科書を選択してしまうということではなく、どういう教科書を選択するか、という視点を気にしてほしい。性的なことへの興味が中学校3年生になると90%近くなる。何歳に100%になるかというと、100%にはならない。世の中には性的なことに関心を持たない人もいる。そういう層は増えてきている。そういう目があると、そういう人もいると理解できる。
委員	男の子、女の子役割があるということと地位が平等にならない、ということが結びつくのだろうか。地位と役割は違う。男女で肉体的に違うのはあるが、それぞれの係の役割が違うから平等にはならない、とはならない。アンケートの取り方や大人たちの捉え方があり、難しいと思う。
	【質問票6について】

委員	スマホをもつと、インスタやラインで見ず知らずの人と繋がることができる。同性の人でも異性の人でも友達感覚で会うことができる。可能性としてはそこからデートDVに繋がっていく場合もあると思う。学校ではSNSのトラブルはあるのだろうか。
委員	情報モラル講座をもって未然防止等の講座を行っている。多治見警察署とも連携して進めている。
会長	中学生で多いのは写真の流出である。最近怖いのは、顔だけあれば生成AIで作れてしまう。高校生の被害も多い。もし被害にあった場合は信頼できる大人に相談することを伝えている。犯罪に巻き込まれていることを伝えて、巻き込まれた子どもは悪くないことをしっかり伝える。
	【質問票7について】
会長	相談したことがある数値が低いのは自分で解決できたのか、相談できる場所を知らないのかどちらだろうか。
	【推進会議全体について】
委員	目標値や実績値が-になっているものは、数値として出せないものなのか実績がないものだろうか。
事務局	言われるとおり、数値として出せない、若しくは実績がないものである。
委員	仕事や家庭は男女平等であるべきである、の質問の方が分かりやすいのではないだろうか。
委員	公共施設の男性トイレにオムツ交換台のようなものはあるだろうか。お父さんがやらなければいけない、お母さんがやらなければいけない、という括りではなくやれる人がやれるようになる時代に向かっていけば良い。
委員	男性の育児休暇取得の割合が68%であるが、工業団地やイオンなど大きな企業がアンケート対象だと思う。事業主によっては育児休暇の申し出があった場合には、取らせなければいけないことを知らない場合もある。小規模の事業を対象に加えても15%が目標値だと低すぎるのではないだろうか。
委員	岐阜県「女性」相談支援センターとなっているので、DVをするのは男性であるというのは思い込みだと思う。
会長	「女性」とつくと男性が相談できないと思ってしまう。
委員	えるぼし認定企業の実績値が0件なので働きかけが必要だと思う。
委員	講座の名前に「ママ」がついているとお父さんが参加しにくいのではないか。チラシ作成の際に注意してほしい。門戸を広げてほしい。
委員	「女子」バレークラブの会長を現在やっているが、男性が会長をやっていることはなかった。お父さん全員に声をかけたら9割参加している。きっかけが大事だと思う。何かのきっかけさえあれば、参加することはあると思う。育児にしてもそうだと思う。
	【その他】

	終了
--	----